



A R C H I T E C T U R E

A R C H I T E C T U R E

D E S I G N

D E S I G N

C O N C O U R S

C O N C O U R S

2 0 0 3

2 0 0 3

[平成15年度]

# 高校生建築デザインコンクール

課題／キャンプ場内のミニビジターセンター

主催

北海道

(社)日本建築家協会北海道支部

(社)北海道建築士事務所協会

(社)北海道建築士会



# ARCHITECTURE DESIGN CONCOURS 2003

## はじめに

公共建築物の整備を考える上では、機能や性能の充実に沿って、地域のシンボルとして道民に親しまれ、いつまでも愛着を持って利用されるよう配慮する必要があります。

道では、このような道民に親しまれる公共建築物の整備を進めていくため、平成8年度から高校生建築デザインコンクールを実施し、道内の工業高校生を対象としてユニークなアイデアを募集し、その提案を参考にして参りました。

平成12年度からは、コンクールをより幅広い立場から実施することで、一層充実したものとするため、(社)日本建築家協会北海道支部、(社)北海道建築士事務所協会、(社)北海道建築士会との共催事業としております。

このようなコンクールを通して、公共建築物について考える機会を与えられることは、建築を志す高校生の皆さんにとって勉学の励みになり、将来の建築技術者の育成に大きく貢献するものと期待する所でありたいと考えております。

北海道におきましては、この度選定された最優秀作品の設計主旨やデザインを踏まえて、道民の皆様にも親しまれる施設づくりを今後とも進めていきたいと考えております。

終わりになりますが、このコンクールの実施にあたり、各高等学校をはじめ、関係機関の皆様には多大なご協力を賜り厚く御礼申し上げますとともに、ご応募いただいた高校生の皆さんの今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

平成15年12月

北海道建設部長

山上 徹郎

M E S S A G E

## 高校生建築デザインコンクールの概要

より道民に愛され親しまれる公共建築物づくりを進めていくため、平成8年度から「高校生建築デザインコンクール」を実施しています。

このコンクールは、次世代を担う建築技術者となる道内工業高等学校（建築系学科）に在籍する生徒から夢のあるユニークなアイデアを募集するものです。

最優秀作品に選ばれた作品の提案主旨は、北海道において、実施設計に取り入れ道民に親しまれる施設となるよう建設を進めていきます。

●課題／「キャンプ場内のミニビジターセンター」  
自然とのふれあい体験と滞在利用の拠点機能を併せ持つキャンプ場の核となるのにふさわしい「ミニビジターセンター」をデザインしてください。

●応募資格／道内の工業高校の建築系学科に在籍する個人又は3名以下のグループ  
●提出図面／JIS規格A2判（420×594mm）1枚片面に下記の全ての図面を描く  
①設計主旨 ②配置図（1/200～300） ③平面図（1/100） ④断面図（1/100）  
⑤立面図（1/100） ⑥スケッチ ⑦建築概要

●応募総数／50作品  
●入選作品／・最優秀作品賞 1点 ・優秀作品賞 3点 ・佳作 4点  
●審査経過／・募集要項配付 平成15年7月18日  
・作品受付 平成15年10月6日～17日  
・選定委員会 平成15年11月20日  
・作品展 平成16年1月13日～16日

●選定委員／山下祝男 北海道建設部建築整備室計画管理課長  
池田尚志 北海道教育庁生涯学習部高校教育課指導主事  
村井公裕 北海道環境生活部環境室自然環境課長  
吉田 宏 (社)日本建築家協会北海道支部副支部長  
西村 武 (社)北海道建築士事務所協会副会長  
木村 忠 (社)北海道建築士会まちづくり委員会副委員長



## 審査のポイント

- 高校生らしい若々しさと創造性にあふれているか。
- 設計のコンセプトやデザインに魅力があるか。
- 立地条件を生かしているか。
- 実施設計に反映させ得るデザインであるか。



このコンクールは、工業高等学校に在籍する建築系学科の生徒の皆さんからアイデアを募集し、道民からより親しまれる公共建築物づくりを進めるためのもので、今年で8回目となっております。

今回は、釧路湿原国立公園内に建築を予定している「キャンプ場内のミニビジターセンター」を課題として、自然とのふれあい体験と滞在利用の拠点機能を併せ持つキャンプ場の核となるのにふさわしい施設のデザインを求めたところ、多くの作品が応募されました。

この課題施設は、自然を満喫できるエコロジーキャンプ場の中核施設として、管理棟の役割はもとより、周辺の自然環境との調和を図るとともに、環境学習、情報発信等の場として位置づけられる施設であり、配慮すべきことが多く、とても難しい課題ではありますが、高校生にとっては、やりがいのある取り組みになったかと思えます。

選定委員会では、設計のコンセプトやデザインの魅力などの観点から、厳正なる審査を重ねた結果、最優秀作品1点、優秀作品3点、佳作4点を選定いたしました。

最優秀作品賞に選ばれたのは、札幌工業高等学校建築科1年生の加藤浩幸君、川瀬璃以子さん、田伏洗さんの3人グループで、1年生による最優秀作品受賞は、このコンクール始めて以来の画期的なことです。本当に素晴らしいことだと思います。

このグループの作品は、他の作品でも多く見られた丹頂鶴をモチーフにしたものであり、楽しさを喚起する三角形のユニークなデザインが高く評価されました。高校生らしい若々しさやインパクトの点で秀逸だったのがとても印象的でした。

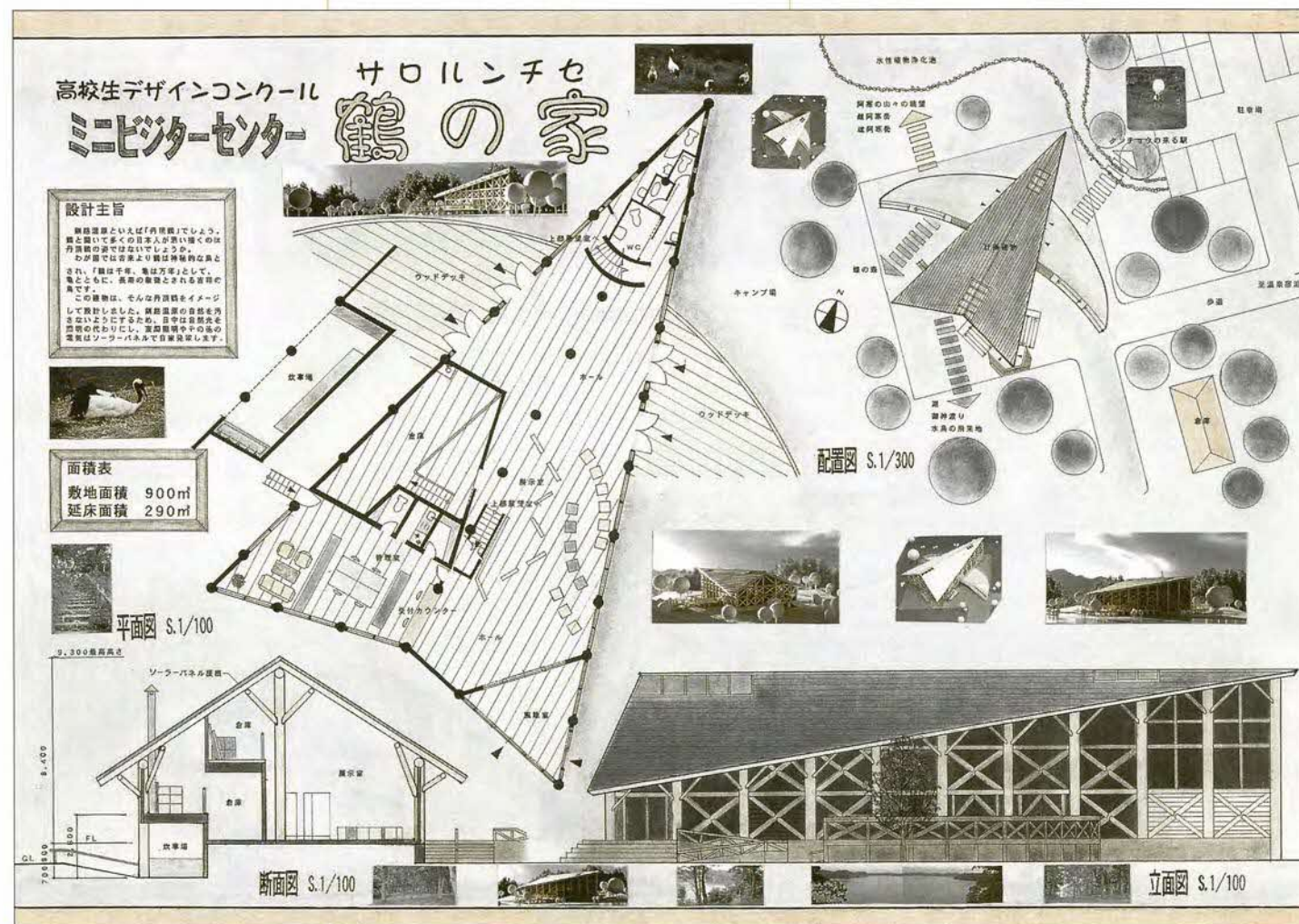
優秀作品賞の原田麻美さんの作品は、最優秀作品同様に鶴をコンセプトに採用しておりますが、とてもバランスがよく、堅実な設計となっており、最優秀の作品とはまた異なる観点から非常に評価が高く、甲乙つけがたいものがありました。

また、グループで優秀作品賞に選ばれた松井竜太君と木村匡宏君の作品は、木の温かみを重視した設計で、ドームのようなデザインが個性的だったと思います。

さらに、グループで優秀作品賞を受賞した井出孝君と日ヶ久保守君は、地元の釧路工業高等学校から唯一の受賞ですが、釧路湿原の鶴をコンセプトに採用した作品が多かった中で、フクロウのイメージを取り入れているのがユニークでした。地の利を生かして、環境に適応した使いやすさを考慮している点も評価できます。

このほか、佳作に選ばれた4作品も力作ぞろいであり、また惜しくも入賞されなかった作品の中にも、高校生らしい新鮮なアイデアにあふれるものも多くあったことも申し添えておきます。今回ご応募いただいた皆さんの今後のご活躍を期待します。

最優秀作品賞



札幌工業高等学校(1年)  
加藤 浩幸  
川瀬 璃以子  
田伏 洗

設計主旨  
釧路湿原といえば「丹頂鶴」でしょう。鶴と聞いて多くの日本人が思い描くのは丹頂鶴の姿ではないでしょうか。わが国では古来より鶴は神秘的な鳥とされ、「鶴は千年、亀は万年」として、亀とともに、長寿の象徴とされる吉祥の鳥です。この建物は、そんな丹頂鶴をイメージして設計しました。釧路湿原の自然を汚さないようにするため、日中は自然光を照明の代わりにし、夜間照明やその他の電気はソーラーパネルで自家発電します。

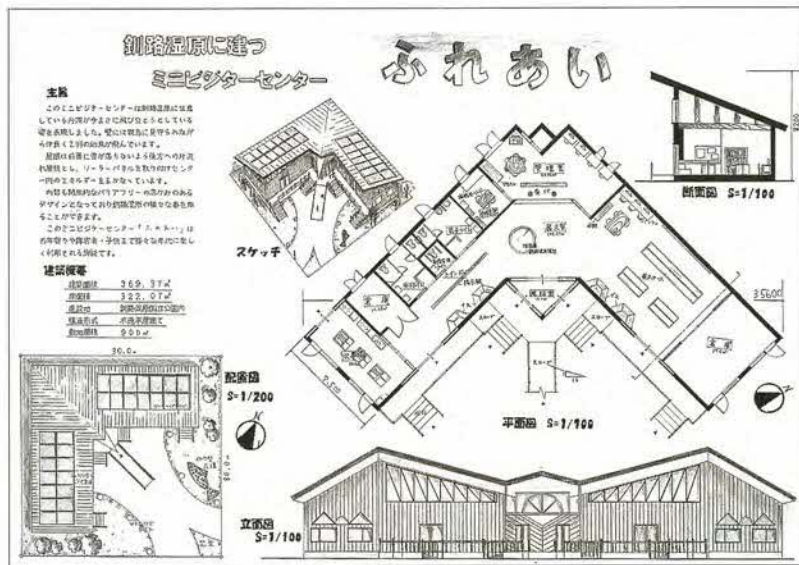
平成15年度高校生建築デザインコンクール 選定委員会委員長  
北海道建設部建築整備室計画管理課長

山下 祝男



入賞作品

優秀作品賞

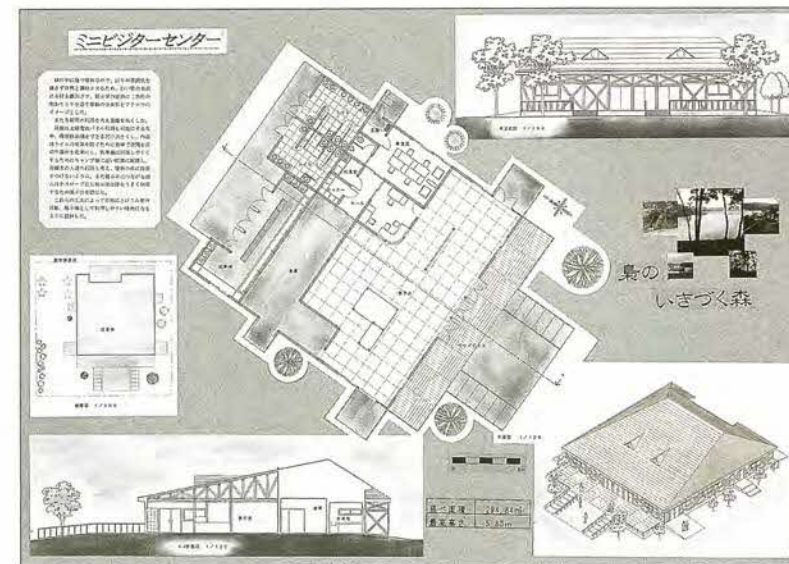


函館工業高等学校(2年) 原田 麻美

設計主旨

このミニビジターセンターは釧路湿原に生息している丹頂が今まさに飛び立とうとしている姿を表現しました。壁には親鳥に見守られながら仲良く2羽の幼鳥が飛んでいます。屋根には前面に雪が落ちないように後方への方流れ屋根とし、ソーラーパネルを取り付けセンター内のエネルギーをまかっています。内部も開放的なバリアフリーの温かみのあるデザインとなっており釧路湿原の様々な事を知ることができます。このミニビジターセンター「ふれあい」はお年寄りや障害者・子供まで様々な年代に楽しく利用される施設です。

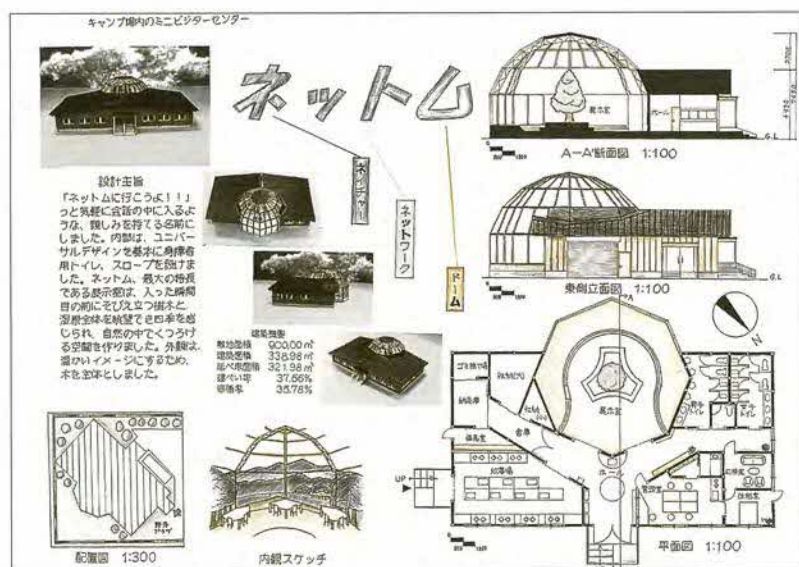
優秀作品賞



釧路工業高等学校(2年) 井出 孝・日ヶ久保守

設計主旨

緑の中に建つ建物なので、回りの雰囲気を変えずに自然と調和させるため、白い壁の表面に木材を露出させ、展示室の屋根に三角形の明かりとりを造り、建物の全体形をファロウのイメージとした。また、冬期間の利用を考え基礎を高くした。屋根は太陽電池パネル利用を可能にするため、両屋根面積をできるだけ大きくし、内部はトイレの臭気を防ぐために倉庫で空間を区切り場所を北東にし、炊事場は利用しやすくするために、キャンプ場に近い位置に配置し、身障者の人達の利用も考え、建物の床に段差をつけないように、また展示室につながる出入口をスロープにし展示室は住をうまく利用するため展示台を設けた。これらの工夫によって自然にとけこみ野外活動、展示場として利用しやすい建物になるように設計した。



旭川工業高等学校(3年) 松井 竜太・木村 匡宏

設計主旨

「ネットムに行こう!!」っと気軽に会話の中に入るような、親しみを持てる名前にしました。内部は、ユニバーサルデザインを基本に身障者用トイレ、スロープを設けました。ネットム、最大の特長である展示室は、入った瞬間、目の前にそびえ立つ樹木と湿原全体を眺望でき、四季を感じられ、自然の中でくつろげる空間を作りました。外観は、温かいイメージにするため、木を主体としました。



入賞作品

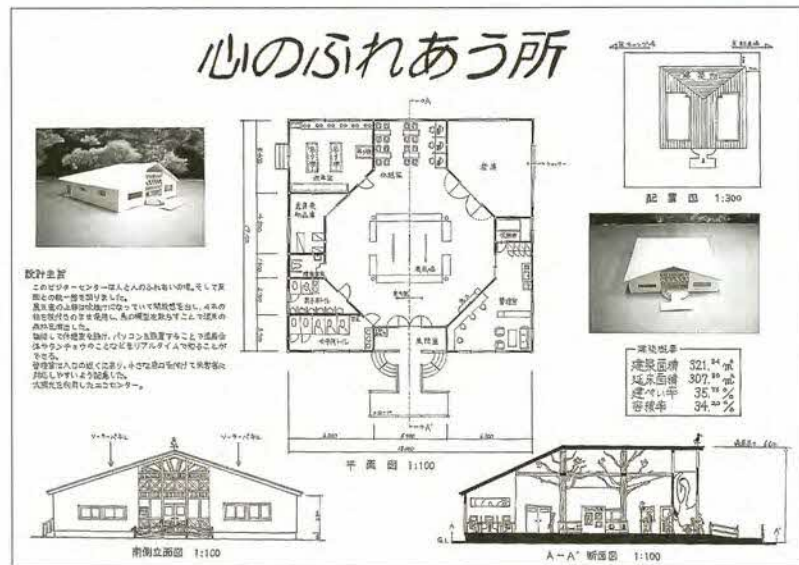
佳作



函館工業高等学校(2年) 佐藤 朱

設計主旨

特別天然記念物として保護されているタンチョウをモチーフにデザインしました。外観は上空にははたいているタンチョウを表現し、どこから見てもタンチョウに見えるよう工夫しています。センター内は、全てバリアフリーとして子供からお年寄りまで誰もが安全に楽しく利用できる施設を心がけました。高い天井・トップライト・木のぬくもりで、明るく、ゆとりがあり、やすらぎのある空間となっています。この大空にははたたく「丹頂」でみんなが御路湿原とふれあってほしいと思います。

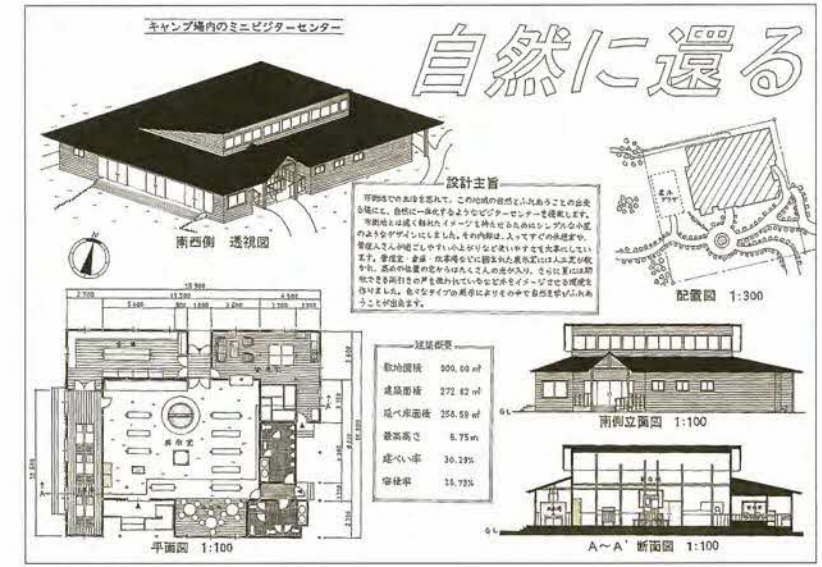


旭川工業高等学校(3年) 浅沼 美慧

設計主旨

このピクチャーセンターは人と人のふれあいの場、そして周囲との統一感を回りました。展示室の上部は吹抜けになっていて開放感を出し、4本の柱を枝付きのまま使用し、鳥の模型を散らすことで湿原の森林を演出した。隣接して休憩室を設け、パソコンを配置することで、湿原全体やタンチョウのことなどをリアルタイムで知ることが出来る。管理室は入口の近くにおき、小さな窓を付けて、来客者に太陽光を利用したエコセンター。

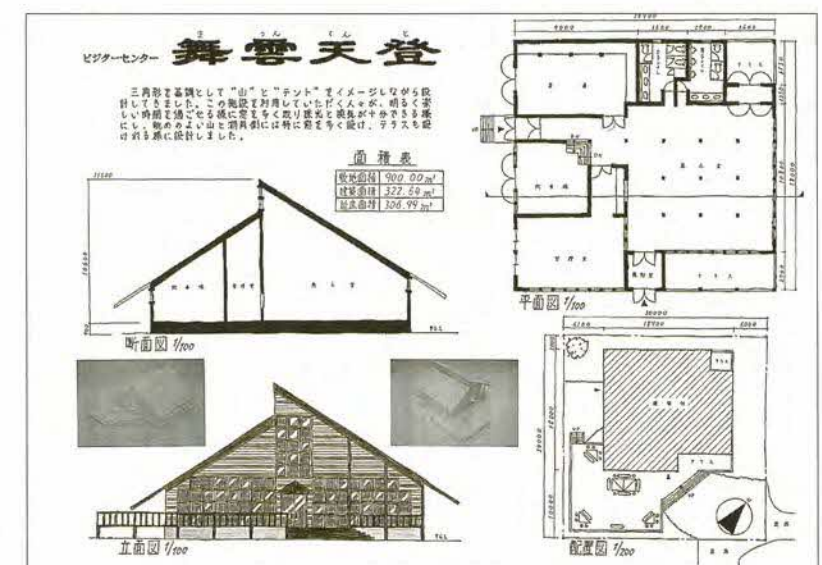
佳作



旭川工業高等学校(3年) 大橋 貴文

設計主旨

市街地での生活を忘れて、この地域の自然とふれあうことの出来る様にと、自然に一体化するようなピクチャーセンターを提案します。市街地とは遠く離れたイメージを持たせるために、シンプルな小屋のようなデザインにしました。その内部は、入ってすぐの休憩室や管理人さんが過しやすい小上がりなど使いやすさを大事にしています。管理室・倉庫・炊事場などに囲まれた展示室には人工芝が敷かれ、高めの位置の窓からはたくさんの光が入り、さらには夏には開放できる両引きの戸を使われているなど外をイメージさせる環境を作りました。色々なタイプの展示によりその中で自然を学びふれあうことが出来ます。



北見工業高等学校(3年) 神田 美雪・畑田 妙子

設計主旨

三角形を基調として「山」と「テント」をイメージしながら設計してきました。この施設を利用していただく人々が、明るく楽しい時間を過ごせる様に窓を多く取り採光と換気が十分出来る様にし、眺めのよい山と湖両側には、特に窓を多く設け、テラスも設けられる様に設計しました。



## 平成15年度高校生建築デザインコンクール応募者一覧

### 札幌工業高等学校 (1作品3名)

加藤浩幸(1年)(3名グループ)【最優秀作品賞】  
川瀬璃以子(1年) //  
田伏 洸(1年) //

### 函館工業高等学校 (14作品19名)

原田麻美(2年)【優秀作品賞】  
山本亜沙子(2年)(2名グループ)  
川添ちひろ(2年) //  
佐藤 朱(2年)【佳作】  
福井衣里(2年)  
住吉裕任(2年)(3名グループ)  
中島裕介(2年) //  
横木潤也(2年) //  
成田淳代(2年)  
佐藤由布子(2年)  
佐々木大輔(2年)(2名グループ)  
石川尚弥(2年) //  
石田輝也(2年)  
三輪このみ(2年)  
菅野竜也(2年)  
本宿まなみ(2年)(2名グループ)  
門間沙裕(2年) //  
細畑圭佑(2年)  
滝下 翔(2年)

### 小樽工業高等学校 (1作品1名)

白鳥貴則(3年)

### 美唄工業高等学校 (1作品2名)

館山友人(3年)(2名グループ)  
鈴木春恵(2年) //

### 旭川工業高等学校 (7作品12名)

奥 智之(2年)(3名グループ)  
是元健吾(2年) //  
土田峰史(2年) //  
幕田 望(3年)(2名グループ)  
佐藤康仁(3年) //  
田中優紀(3年)  
松井竜太(3年)(2名グループ)【優秀作品賞】  
木村匡宏(3年) //  
浅沼美慧(3年)【佳作】  
大橋貴文(3年)【佳作】  
米田勝信(3年)(2名グループ)  
山上達也(3年) //

### 名寄光凌高等学校 (15作品15名)

合掌純一(3年)  
木村和貴(3年)  
九町隆介(3年)  
栗原良平(3年)  
笹木佳洋(3年)  
高橋哲哉(3年)  
高橋陸陽(3年)  
谷藤貴義(3年)  
寺島龍也(3年)  
仁木則彰(3年)

平野慎吾(3年)  
藤島裕也(3年)  
前田篤人(3年)  
眞鍋和也(3年)  
山田和哉(3年)

### 釧路工業高等学校 (2作品3名)

井出 孝(2年)(2名グループ)【優秀作品賞】  
日ヶ久保守(2年) //  
門 泰之(2年)

### 帯広工業高等学校 (3作品3名)

川村玲加(3年)  
長谷川瑞季(3年)  
赤尾三紗子(3年)

### 苫小牧工業高等学校 (2作品2名)

川上貴司(3年)  
西岡政則(3年)

### 北見工業高等学校 (4作品7名)

山田和樹(3年)(2名グループ)  
辻 誠実(3年) //  
嶋崎孝則(3年)  
蔵重裕太郎(3年)(2名グループ)  
川口透意(3年) //  
神田美雪(3年)(2名グループ)【佳作】  
畑田妙子(3年) //

計—50作品(67名)

### ● 高校別応募作品数一覧

高校名	H15応募作品数
札幌工業高等学校	1
函館工業高等学校	14
小樽工業高等学校	1
美唄工業高等学校	1
旭川工業高等学校	7
名寄光凌高等学校	15
釧路工業高等学校	2
帯広工業高等学校	3
苫小牧工業高等学校	2
北見工業高等学校	4

# ARCHITECTURE DESIGN CONCOURS 2003

## 高校生建築デザインコンクール

発行／北海道建設部建築整備室計画管理課  
札幌市中央区北3条西6丁目  
TEL.011-231-4111 内線29-869

印刷／興国印刷株式会社 平成15年12月発行